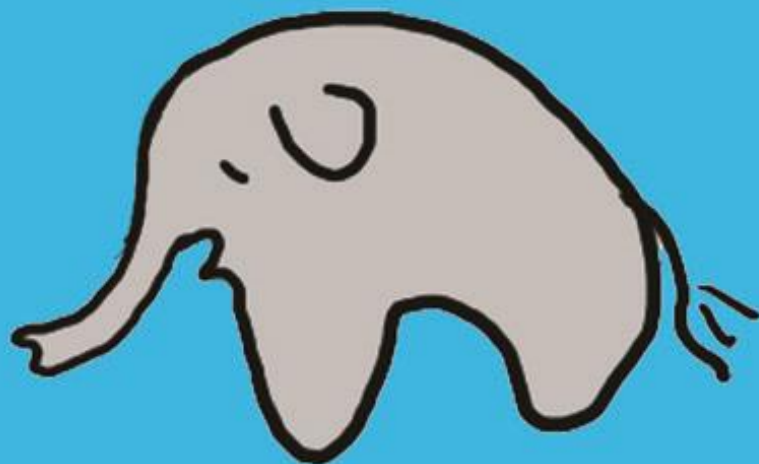
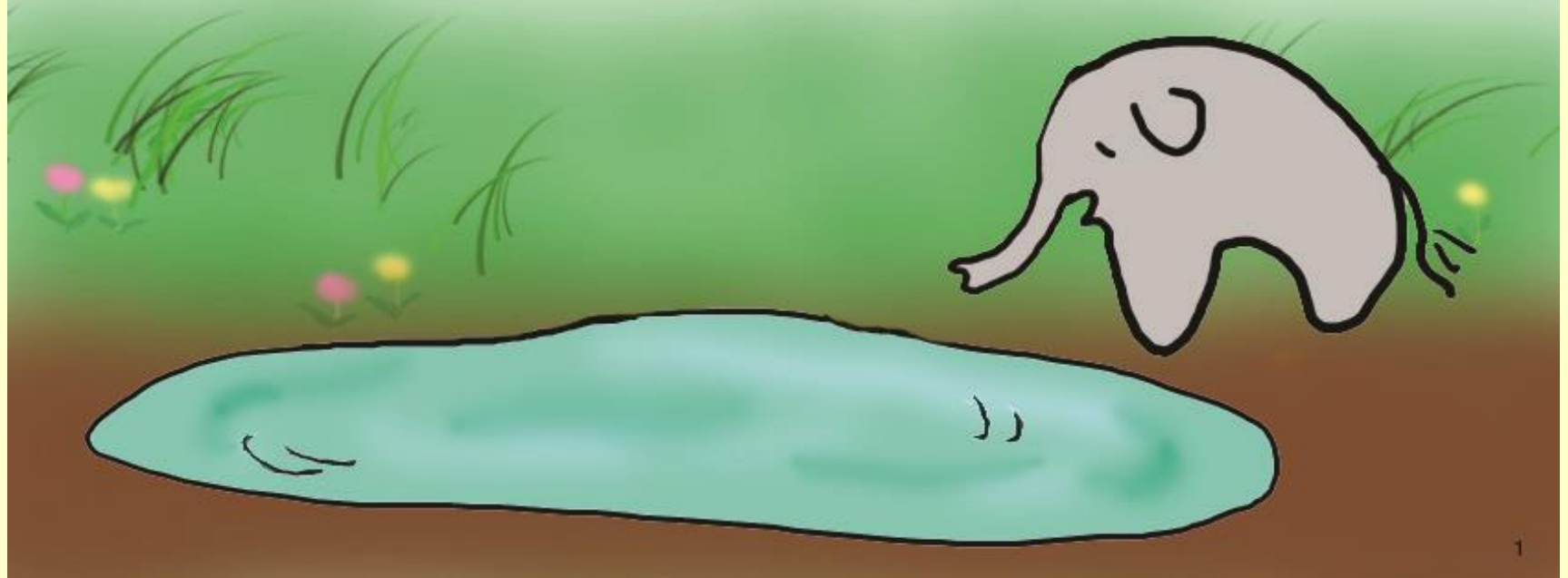


ぞうのピエール



え・ぶん なな

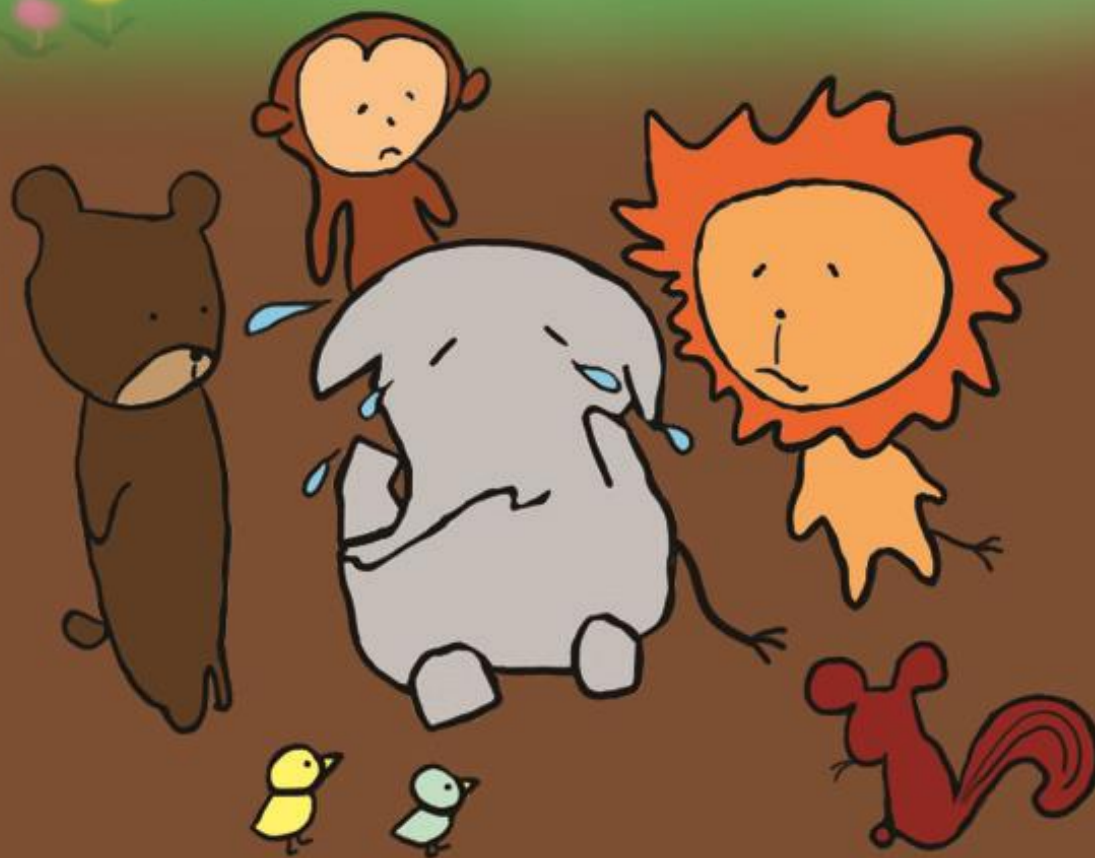
ぞうの ピエールは およぐのが だいの にかて。
きょうも ピエールは もりの プールで
およぐれんしゅう。
ところが・・・



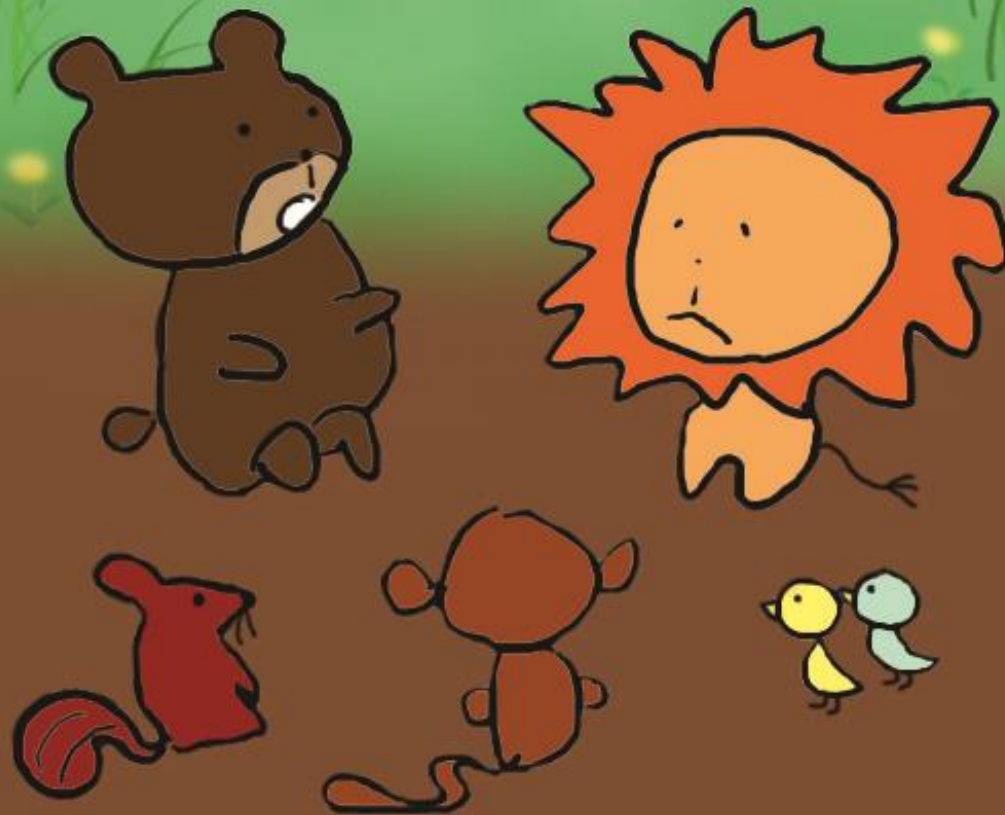
からだか とんどん しずんでいって おぼれてしまいました。



やっとのことで もりのみんなに たすけてもらい
たすかりましたが
ピエールは えんえん なきだしてしまいました。



もりのみんなは ピエールが およげるように
なるために なにかできないか かんがえました。



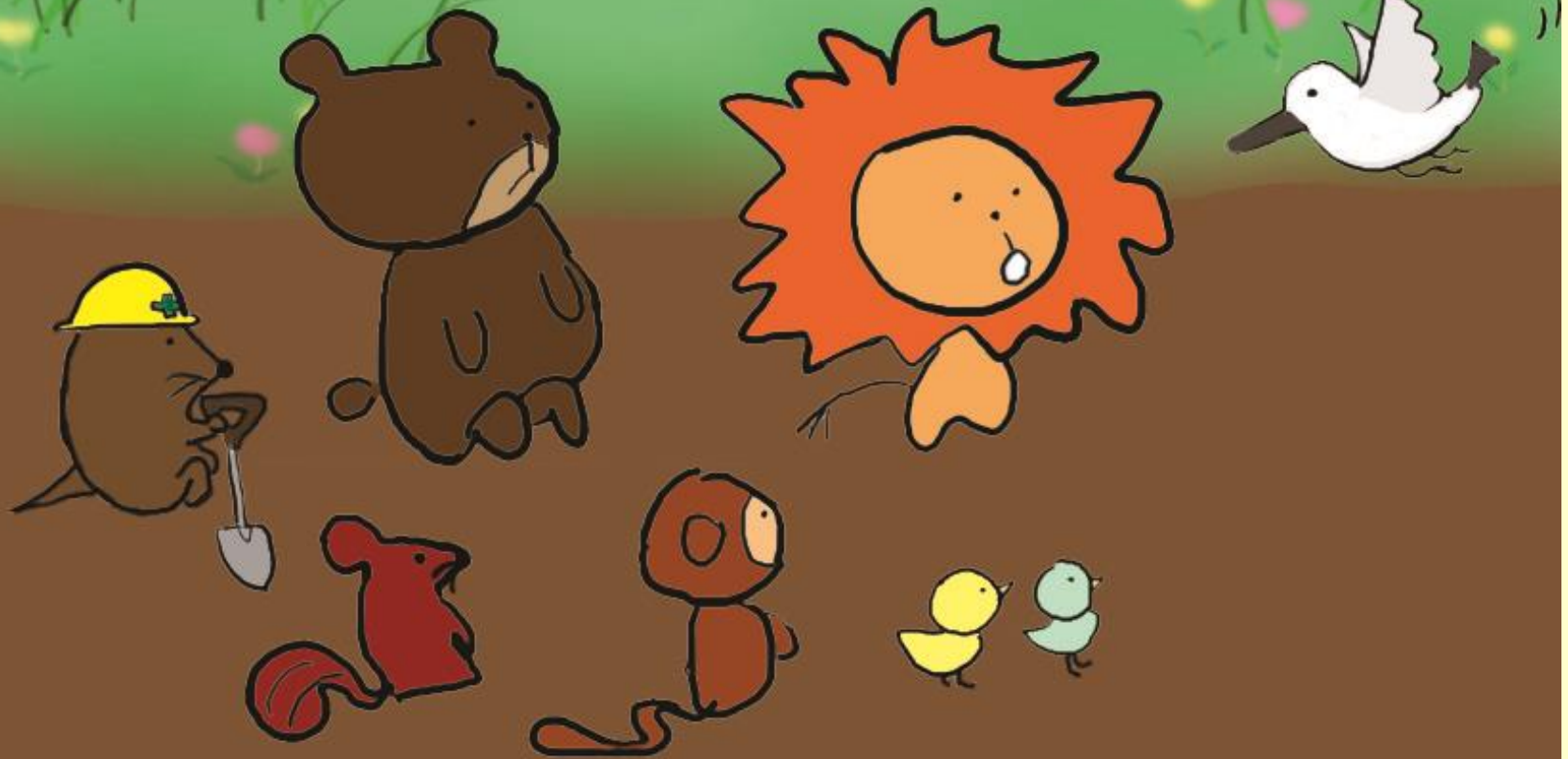
そこへ あなほりめいじんの フランソワが
やってきました。

フランソワは みんなの はなしを きくと いいました。

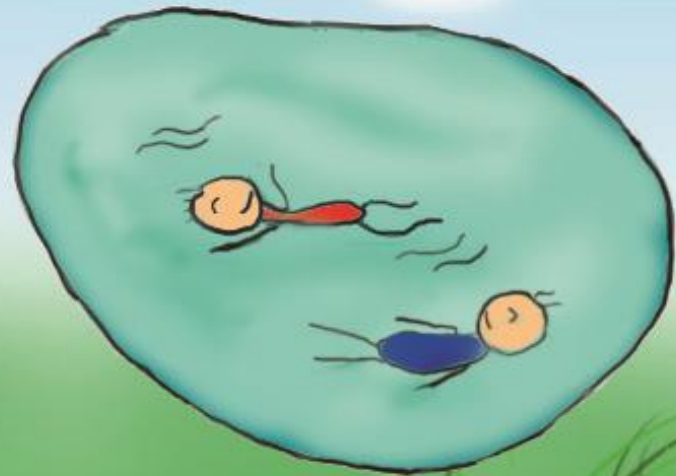
「う～ん、まずは おほれない ふかさのフールで れんしゅうしないと だめだよ。
もりのフールを つくりかえよう。」



そこへ ものしりの ジェームスが やってきました。



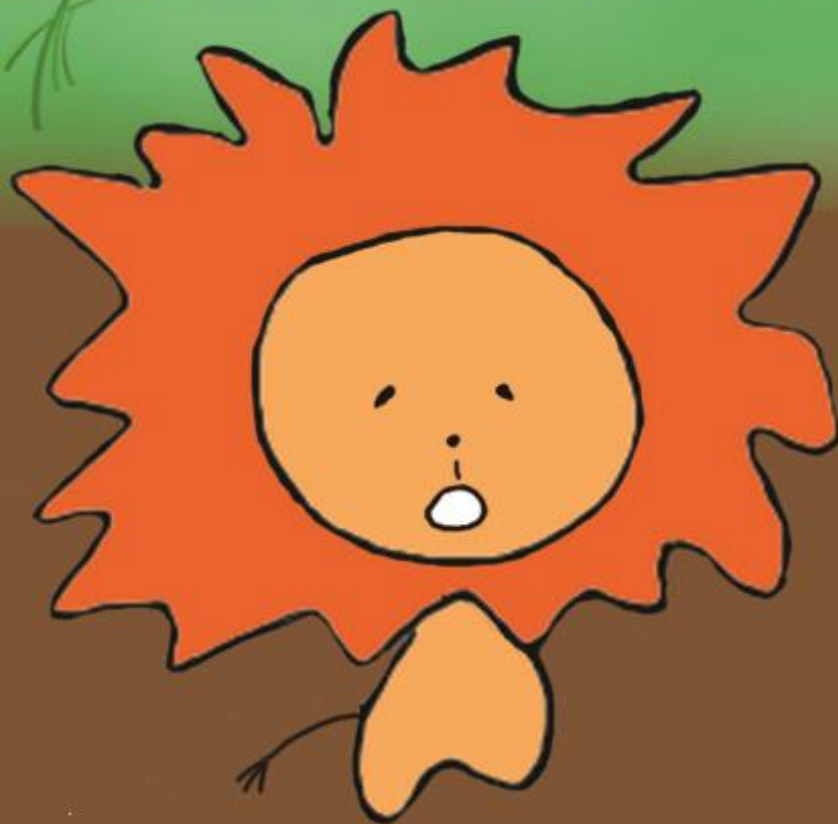
ジェームスは みんなの はなしを きくと いいました。
「しおが ものすごく たくさん はいっている
うみで みんな ぶかぶか ういているのを
みたことがあるよ。
プールに しおを たくさん いれてみたら？」



するとライオンのトムが いいました。

「ピエールは こわくて もう みずのなかには
はいりたくない といっていたよ。

ピエールが フールに はいりたがらなかったら どうする？」



くまの ポールが いいました。

「じゃあ、まほうのフールって ことにしようよ。

ぜったいに おほれない まほうのフール！」



そして もりのみんなは ピエールのために
まほうのフールをつくりはじめました。
ちかくの しおやまから しおを たくさん はこんできて
とんとん もりのフールへ 入れていきました。

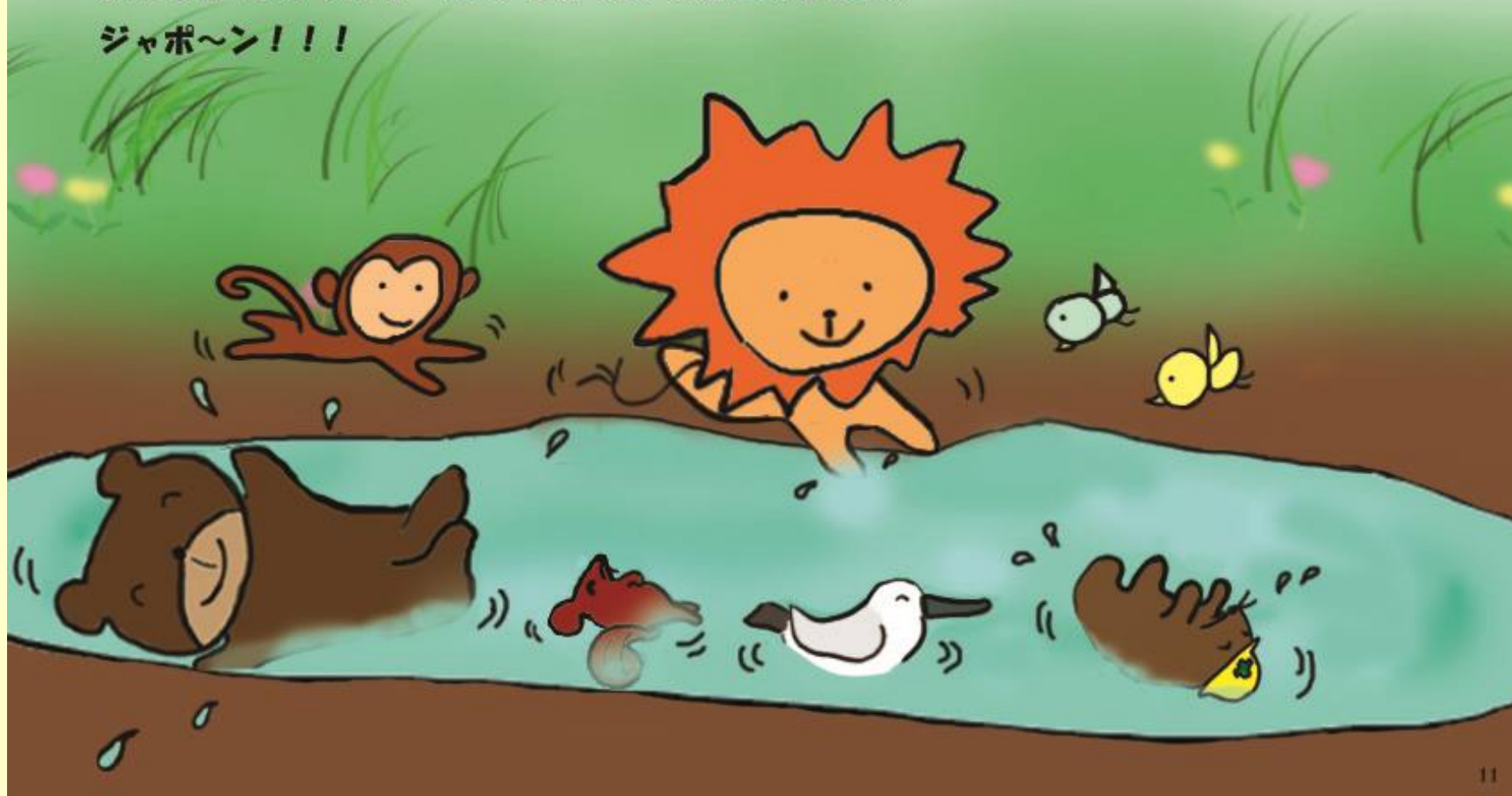


プールの上に おもちゃがたくさん たまって ピエールの おもちゃとどく
くらいの ふかさに なりました。

さあ、できた！

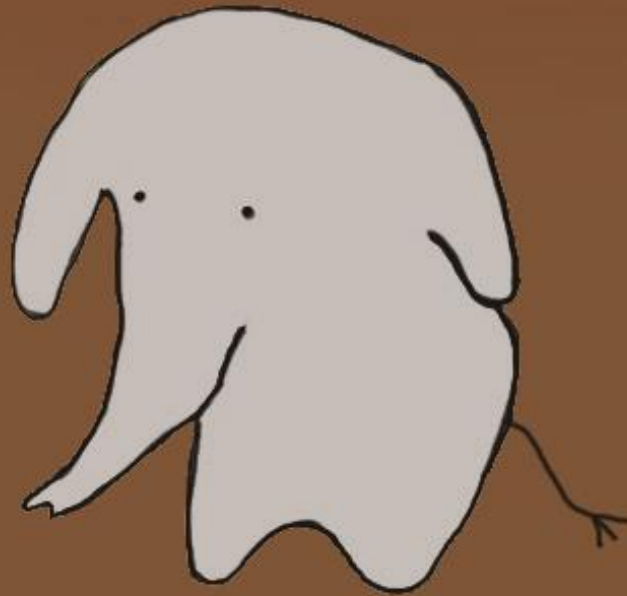
みんなは まほうのプールに つぎつぎ とびこみました。

ジャポ〜ン！！！！



そこへ ピエールが やってきました。

みんなは ピエールに まほうのフールの はなしを しました。



くまのボールが いいました。

「からだの ちからを めくと まほうがかかって

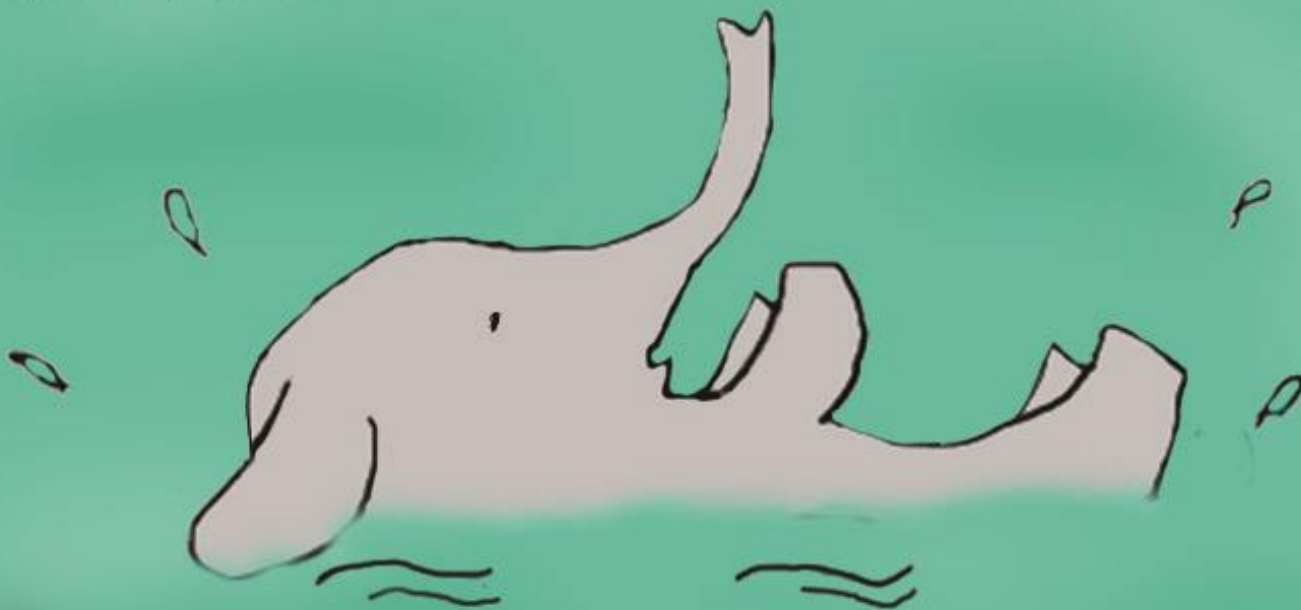
ぷかぷか うけるんだ。ほら、ほくたちみんな ういてるでしょ。

ちからをぬいて ぷかぷか～ってね！

そうしたら ぜったいに おほれないから だいじょうぶだよ。」



ピエールは ポールの ことばを しんじて
からだの ちからを おもいきり めいて まほうのフールへ とびこみました。
ジャポ〜ン！！
「うわっ、ほく ういてる！」



ピエールが うまく およげなかったのは からだに ちからが
はいていたからなのです。

みんながつくった まほうのフールは ジェームスがみた うみのように
だれでも ぷかぷか うくようには なりませんでした。

ピエールは みんながかけた まほうのおかげで およげるようになつたのです。
ちからをめぐと ききめがでる まほうのね。

